

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290200157		
法人名	社会福祉法人やすぎ福祉会		
事業所名	ソレイユグループホームあらしまほがらか通り		
所在地	島根県安来市荒島町1734		
自己評価作成日	令和4年 6月 10日	評価結果市町村受理日	令和4年7月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/32/">http://www.kai.gokensaku.jp/32/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社ケーエヌシー
所在地	島根県松江市黒田町40番地8
訪問調査日	令和4年 6月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たち職員は、現在のご利用者の姿しかわかりませんが、歩んでこられた人生をご家族よりお聞きしながら、寄り添う気持ち、学ぶ姿勢、感謝の気持ち等で対応していきます。そして、今できている事を継続し、互いに支え合っていく事を又、少しずつ衰えていく身体状況を理解し、緊急時や看取りのケアの統一を目指します。新型コロナウイルス感染予防のためには、感染状況により外部からの交流を自粛して、施設内で楽しめる企画を考案して行くとともに、自由に面会ができませんが、広報誌、動画、写真、手紙及び電話などを通じてご家族にご利用者の状況がよくわかるように工夫します。

事業所は町内の一角に立地し、町内会とは広報誌あおばの地域配布により関係構築の切っ掛けに引き続き努めている。職員は、理念の実践に際して、「優しい言葉に笑顔を添えて」のスローガンを目標に諸会議で共有し、高齢者ケアのキーワードである人間の尊厳を尊重することを大切に利用者にアプローチし、利用者本位のサービス提供に努めている。又、今出来ている事が持続できるように利用者へ寄り添って支援し、次第に衰えて行く身体状況等を理解しながら、対処する工夫に努めている。新型コロナウイルス感染症蔓延防止では、外部者との面会や交流は自粛し、施設内で楽しむ行事等を工夫実践している。家族は本人とは窓越しに面会をして又、広報誌や手紙等により本人の暮らしの状況について報告を受けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基に今年度のスローガン「優しい言葉に笑顔を添えて」である。家庭的な雰囲気大切に、ご利用者も職員も笑顔で目指している	「優しい言葉に笑顔を添えて」をスローガンにして共有実践し、コロナ禍マスクは笑顔が見えにくいので、声や体を工夫し、家庭的な雰囲気の中、利用者笑顔で過ごすを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、自治会の集まりも中止である。以前より地域版広報誌「あおば」を作成し、自治会長さんに配布依頼している	コロナ禍の自治会は集会等を休止している。年2回発行の「あおば」を自治会長に継続して配布を頼み事業所広報に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	過ごしやすい季節、天気の良い日には、施設周辺の散歩や桜を見に出かけます。職員とご利用者、地域の方々と挨拶を交わしたりする事もあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	奇数月、第2金曜日に会議開催しています。新型コロナ感染者が多い時は、予防対策として、書面報告を行う事もあった。特に昨年度は大雨が降り、防災について(水害)意見を参考にしている。	運営推進会議は市内交流センターで開催して、県下コロナ感染者が増えた時は、書面会議報告に代えている。前年度の大雨水害対応の意見や地域の状況等は聞いたりし、支援の参考にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、制度改正、提出書類、入退所の報告、介護事故報告、など日頃より些細な事でも相談するようにしている。相談後は的確な返事が帰ってきます。	運営推進会議や入退所など連絡を密に情報を共有し、相談しやすい関係を築き、書類提出や制度改正では不備な所や不明な所は説明を受け、書面で返事が来る等連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束研修を月1回、身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催している。特に言葉で抑制するような事があるので、その点を重点に意見交換をしたり、目標を決めて取り組んでいる。「言葉の乱れはケアの乱れ」と申し合わせている。	身体拘束の取り組みは、全職員が順番に研修担当者となり事例をあげて意見交換を行い、行動制限に繋がる言葉を特に注意し重点をおき、「言葉の乱れはケアの乱れ」を会議で話し合い共有しケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の身体拘束研修の中で、虐待も含み取り組んでいる。参加できなかった職員のために、研修資料、意見を各ユニットで共有し、振り返りを行い常に意識を持ってケアするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者は現在ない。職員会にて研修している。財産の管理などする事はないが、職員と利用者の関係は強者と弱者になりやすい。同じ立場である事を理解して支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍の中で、居室や施設内の共有スペースなど見て頂くことはできないが、入所前説明でパンフレットなどで説明する。入所当日契約書を受け取る。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの見直しや作成時に、必ず家族の意見や要望を聞いている。満足度アンケートの実施を行い、意見を職員会やユニット会議にて検討し、反映させている	利用者家族には常に問いかけ意見や要望を聞いている。ケアプランの作成や見直しに反映させている。事業所独自のアンケート実施による家族の意見等は職員会議やユニット会議で話し合い反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット内でユニット会議の議題に挙げてほしいことなどまとめ、月1回あるユニット会議にて意見交換をしている。コロナ禍で感染予防などについても話し合い、改善等を行った。	月1回のユニット会議では、ケアの気づきや課題を議題にあげ意見交換を行い、ケアの方法や提案、コロナ感染症予防対策も話し合っており、ユニット会議の意見等は、改善等に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナ禍で感染予防のため、濃厚接触者等で自宅待機にて休む時、固定の職員にばかり負担がいかないように配慮している。又、人事考課目標を設定し、向上心を持ち勤務している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部へ出かける研修は中止になったり、オンラインになったりであるが、出来るだけ参加している。施設内研修は感染予防をしながら実施している。スキルアップにつながっていると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所とは常に電話等で相談したり確認したりしている。訪問の活動は実施していない。外部研修に参加した際には感染予防に留意しながら他事業所との交流が出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で分かり得る情報収集を行い、対応や対策を検討、安心して生活してもらう為に、ご家族の写真を依頼したり、亡き夫にお茶を備えるようにした。自宅と同じような環境作りもしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	直接の面会ができない現在は受診時や電話で最近の状況を伝えたり、動画や写真を送ったりしている。動画に対しては返信が来たりして喜ばれている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の生活の中で、必要としている事は何か？を職員全体で検討、情報共有し、同じ方向を向くようにしている。特に、入浴、排泄などの案内時の声掛け等、プライバシーに配慮するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴を考慮し、得て、不得手、出来る事、やりたい事を情報収集し、暮らしの提供に努めている。今までできた事ができなくなった利用者には職員と共同で行い役割を果たす。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	良い事ばかりでなく、悪い事、低下してきている事などすべてをご家族に報告するようにしている。常に職員は、利用者と職員の間に関係がおられる事を意識して支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	窓越し、オンライン面会やお花見ドライブ、近所を散策する程度ですが、感染予防をしながら実施できた。畑に出て、作業したり収穫した野菜などを手に取り記念撮影をして記録に残した。	地域交流や馴染みの関係継続はコロナ禍で自粛し、窓越しやオンラインでの面会、花見ドライブや近隣の散策を実践した。他方職員は利用者と畑作業で野菜を収穫し、記念撮影で記録に残す支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレク活動、手作業などで利用者同士おしゃべりをしながら進めたり、職員と一緒に作業するなど共有スペースで交流ができている。又、行事では二つのユニットが一緒にする事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者のその後の様子について、相談を受ける事もある。1ヶ月以上の入院などになると退所となるが、その後体調が改善し、再度入所の申し込みをされ再入所されたケースもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を確認している。日常生活の中で、何気ない会話の中から思いを聞き出し、職員間で情報共有している。ケアプラン作成時には家族の要望も出来る限りの対応をするようにしている。	利用者家族の要望は大切に把握しながら、利用者の暮らし方の意思決定を促し、日常何気なく隣に座りながら又、表情を見ながら会話を交わして、思いを傾聴しその情報を職員は確認し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を基に性格や環境など家族に情報収集し、今までの生活の延長ができるように努めている。自宅から洗濯物を干すハンガーや枕、布団など持参してもらったりしている方もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康チェックや記録を基に表情や言動、食欲に注意し、職員間で異常の早期発見に努めている。又、記録に残し、職員間で共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題を提起し都度カンファレンスを行う、意見、対応、対策を検討。記録、見直し、実行を繰り返す。落ち着いたら家族に報告する。チャレンジ的な介護計画ではなく、実行できる物としている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事も記録に残すように周知している。職員間で情報を共有する事で次につなげるように努めている。介護計画の見直しの際は必ず会議を開催し、評価し、次の介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急の受診など家族の都合と合わない事もあり、代理で受診の付き添い、物品の購入なども家族に代わり買い物をする事もある。家族の要望などにも柔軟に対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪は地域の理容館から来てもらっている。(感染予防をしながら)以前は交流センターから敬老会の際など来てもらっていたが現在は中止している。ドライブや散歩など気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、通院や訪問診療を受けている。毎月、主治医宛に生活、身体状況を書面にまとめ報告している。又受診の際相談事など書面化し家族に預ける事もある。主治医より返事あり。	通院や往診は、入所前のかかりつけ医を大切に継続し、主治医としている。毎日の様子が分かる様に生活身体状況や相談書の書面は家族から主治医に手渡し円滑な通院を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職共に情報を共有している。看護職に、相談したり注意事項などアドバイスを受けている。又、主治医に相談、迅速な受診などの対応も出来ている。嘱託医との連携もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の面会ができないが、地域連携室や病棟看護師と連携し、状態把握に努めている。早めにサマリーを依頼し、退院調整や受け入れ準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの経験はないが、いつその時が来るかわからない事は職員全員理解している。コロナ禍の中でどのように対応していくかシュミレーションしている。家族が望まれるのであれば出来る限りの対応をしていきたい考えである。	看取り対応はマニュアルを作り、職員は理解している。コロナ禍での看取りは、シュミレーション研修が行われ、家族対応もできる限り配慮して、職員にも話掛ける等取り組んでいる。	看取り対応は、マニュアル研修で職員の意識づけを高め、医療関係者との連携も深めて、チーム支援対応のシュミレーションを一層期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中、夜間共に急変時の対応マニュアルを作成している。年に1回救急救命の研修も消防署職員の指導にて講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災による避難訓練をしている。昨年度から水害時の垂直訓練も実施している。備品や、備蓄も準備している。施設から離れて避難する時のために安来3中に依頼している。	コロナ禍では施設独自の火災避難訓練を夜間想定を含め年2回行い、別に水害時避難垂直訓練を実施している。避難時非常用品も備蓄し、災害避難場所は安全な市指定の中学校に依頼する等対策に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の勉強会で再認識している。不適切な言葉使いで利用者が不快な思いをされないように、声掛けの際、声のトーンや早口に注意している。マスクで表情が見えにくい為より注意している。	言葉かけは声の調子や早口が不快な思いをされないように注意し、年上の人であることも常に心がける言葉かけはユニット会議等で勉強会を持ち、目につく所に掲示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な方が多いので、簡単な声掛け、ゆっくり話す、返事を待つようにしている。うまく表現できない方は表情をくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活は、そんなに変化があるものではない。スケジュールに沿ってきちんと時間見て動ける方、ご自分のペースで動かれる方、人それぞれで良い。職員の業務優先は出来るだけ控えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、起床時の整容、爪、ひげ、衣服の汚れ、保清など人前に出ても恥ずかしくないように、利用者の気持ちになって整えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者委託の為、毎食作る事はないが、朝夕の食事の盛り付けを職員と一緒にしている。クッキングや誕生日会などでは好まれる物や季節感のあるものを作っている。	朝夕の盛り付けや片付けは利用者も一緒に行っている。誕生日会は笹巻、たこ焼きそしてお好み焼等季節感のあるメニューを提供し、誕生日会がない月はクッキングの日を作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は体調や体重などを見ながら調節している。形態は呑み込みの状態や歯の状態に合わせ提供している。水分がなかなか摂れない方には好みの物を家族に依頼して持参してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをする。声掛けできる方、一旦ご自分で磨いてもらい、仕上げ磨きをする方、様々。拒否された方には時間を空けて再度挑戦したり、夜だけは義歯を外し洗浄剤に漬ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄記録を行い、パターンを周知している。トイレでの排泄を心がけている。又、経済的な事もあり排泄用品の見直しも都度行う。頻尿の場合は病的な事も考え受診を勧める事もある。	利用者一人一人のサインを把握して、排泄パターンに応じたトイレ誘導を支援している。パットやオムツ類は経済的なこともあり時間帯等を考え見直しを都度行い、頻尿の時は受診を勧める等支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘と認知症は深いかわりがある。記録を基に食事量、水分量、下剤の使用など主治医の指示を仰ぎながら排便コントロールをしている。体操や歩行運動、水分を増やすなども実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、必ずではない。その日の体調や散髪、受診と重なったり、多量の排便があり汚染がみられる時など臨機応変に変更する。しょうぶ湯やゆず湯なども実施している。	入浴は1日6名を前後に午後2時から3時の時間帯に行い週2回を楽しんでいる。職員は利用者3名に早番が対応し各2名が担当し、体調不良、受診や失禁の時は臨機に入浴日を変更し、柚子湯等も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前午後とも体を横にして休む時間を作っている。1日のスケジュールはあるものの、体調を見ながら過ごして頂く。活動時間、静養時間とメリハリのある生活を目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報ファイルを作成し活用。看護師により管理。入院時などは、ファイルの中から提示し、現在飲んでいる薬がすぐわかるようにしている。薬の変更時には症状変化の観察を実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までやって来られた事など生活歴を見ながら、出来る事を役割としている。居室の掃除、洗濯物管理、食事の盛り付けなど様々であるが皆さん、クッキングが好きで試食が大好きである		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で希望する所と言うわけにはいかないが、季節を感じられるように花見などは短時間で出かけている。受診の為、家族と外出される時には気分転換も含め人混みをさけてゆっくり過ごされるよう声掛けしている	これまで通りの外出はコロナ禍で行うことは困難であり、桜、チュウリップやツツジのシーズンなどは、季節に合わせてドライブ外出実践している。受診の時は気分転換のドライブを家族に声掛けする工夫に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方はおられないが、過去に少額持っている事で安心される方がおられた。今後もそういう方があれば家族に協力して頂き対応していきたいと思っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直接電話でお話される方、定期的に手紙が来たり、オンラインで面会ができる方もある。誕生日のお祝いでプレゼントやメッセージカードが来ることもある。動画でお礼の返事を送る事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節感を感じられる壁画や、大きなカレンダー、居室も大きく名前を表示している。コロナ禍なので換気しながらであるが、温度や湿度も管理している。利用者が好きな音楽やビデオを流し楽しんでいる。	共有生活空間は、季節の花々を飾り、壁画作品、カレンダー、居室の名札、スケジュール表、行事や利用者さんの写真等は大きく見やすくわかり易く飾り掲示し、空調管理も適宜に行われて、安心感や季節感ある居心地よく過ごせる工夫に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が近い方は声を掛け合ったり、互いの居室を行き来されています。廊下で会ったりすると笑顔で挨拶されるなど微笑ましく感じる。一人になる時間も大事で、休まっている時など配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、プレゼント(花など)をタンスの上に置いておられる人もあります。又自宅で使用していた洗濯物干し(小型)を居室に置き、ご自分の洗濯物を管理されている人もある。	本人の意向は尊重され、家族の写真を飾り、プレゼントの花はタンスに置いてその人らしく、自宅の延長として使い慣れたものを活かし、居心地よく過ごせる居室を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はゆったりとしている。一人一人の状態に合わせ、ベッドの向きや高さテレビの位置など工夫している。廊下の手すりはオレンジ色で目につきやすい。トイレも大きな字で表示している。		